

平成30年度第3回
荒川区子ども・子育て会議録要録

日時：平成31年3月12日（火）午後1時30分～午後3時30分
会場：あらかわエコセンター2階 環境研修室

丸島会長

定刻になりましたので、始めさせていただきます。

皆様には、年度末のお忙しい時期でございますが、ご出席を賜りまして、ありがとうございます。会長を務めさせていただきます丸島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

右隣にお座りでいらっしゃるのが副会長の長島先生です。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、会議の要録を作成するために、録音させていただきます。

会議録については、委員の皆様にご確認をいただいた後で、会議資料とともに区のホームページに掲載させていただきます。

また、荒川区子ども・子育て会議運営要綱に基づきまして、本会議は傍聴を許可してございます。傍聴希望の方がいらっしゃる場合は入場させてもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

丸島会長

ご異議がないようですので、それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

今回、傍聴を希望される方がいらっしゃいませんので、進めていただければと思います。

丸島会長

わかりました。ありがとうございます。

それでは、会議に入ります前に、まず、お手元の配付資料の確認について、事務局からご説明をお願いします。

伊藤子育て支援課長

それでは、本日お配りしております資料は、席次、次第、委員名簿、資料1から6までをクリップ止めにしたもので、今年2月に「あらかわ子育て応援マップ」を新しく改訂しましたので一部置かせていただきました。

また、今回、条例にも定めがございますが、本会議は公開事業となっております。委員の皆様の名氏及び所属についても公開をさせていただいております。今後、子ども・子育て支援計画を策定する際におきましても、公表させていただくことがございますので、本日、お手数になるかと思いますが、同意書を置かせていただいております。皆様、会議終了後、ご署名の上、ご提出をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

丸島会長

ありがとうございます。

それでは、本日の議事に入りたいと思います。

次第に沿って進めてまいります。

まず、議事の１、平成３１年度荒川区の主な子ども・子育て支援施策について、事務局よりご説明をお願いいたします。

伊藤子育て支援課長

子育て支援課長の伊藤です。

資料をご覧ください。まず、（１）区立児童相談所設置に向けた取り組みの推進です。こちらは予算額１３億６,０２２万７,０００円です。３２年度の児童相談所設置を目指しまして、３１年度におきましては、施設の建設工事が本格化するほか、人材育成を推進するため、他自治体の児童相談所等への職員派遣枠を拡大しています。

（２）あらかわ遊園リニューアル等です。予算額１０億６,５２０万８,０００円です。より魅力的な施設へとリニューアルするため、昨年１２月から休園しています。３１年度は工事を進める一方、夏季の子どもプール運営に加え、アリスの広場におけるキャラクターショーや子どもプールエリアにおける小型遊具の運営を実施いたしまして、休園中でもあらかわ遊園への誘客促進を図るところでございます。

（４）産後ケア事業の拡充です。予算額１,０８５万２,０００円です。生後４カ月までの母子に対して、医療機関等で助産師による育児支援や心身ケアを提供する産後ケアを実施しております。３１年度におきましては、宿泊型、また、日帰り型に加えまして、助産師が自宅を訪問し、授乳相談や育児相談を行う訪問型を新たに実施するものでございます。

（６）私立幼稚園等預かり保育補助です。予算額８５４万９,０００円です。私立幼稚園等におきましては、全園で預かり保育を実施しておりまして、この預かり保育に対し支援を行うことで、平日の長時間や長期の休業中の預かり保育の実施を促進いたします。また、幼児教育の無償化は今年１０月から実施されますが、私立幼稚園の保育料につきましては、これまで国が月額２万５,７００円を上限に無償化するとしていますが、この上限額におきまして、東京都の平均の保育料、月額２万７,５００円まで引き上げを行うことといたします。これによりまして、区内の私立幼稚園の保育料は基本的に無償となります。こちらは補足説明です。

（１１）待機児童解消に向けた保育定員のさらなる拡大です。予算額９億１,６５４万２,０００円です。今年４月に３園の認可保育園が開設いたしまして、７月にはさらに１園、認可保育園が開設いたします。また、平成３２年４月に１園の認可保育園を開設する予定です。

（１４）学童クラブの充実です。予算額４億３２万１,０００円です。児童に遊びと生活の場を提供するため、学童クラブ事業を実施しています。３１年度は学童クラブの需要増に対応するため、（仮称）尾久小学童クラブの整備を進めておりまして、３２年度には尾久小学校において放課後子ども総合プランとして開設する予定です。

（１６）出産・子育て応援事業、新規事業です。予算額１,８５６万１,０００円です。後ほど健康推進課の尾本課長から詳しい説明がございまして、妊娠届出の際に、全ての妊

婦を対象に面接を行い、それぞれの実情に応じた支援プランを作成いたします。

(17) 中学1年生の基礎学力向上事業、こちらも新規事業で、予算額150万円です。区立中学1年生を対象に、夏期休業中に学習の到達度に合わせた補充学習の機会を設け、基礎的・基本的な学力のさらなる向上、学習習慣の定着につなげていきます。

(18) 英語検定受験料補助、こちらも新規事業で、予算額371万円です。全ての区立中学3年生を対象に、実用英語技能検定の受験費用の補助を年1回実施します。

丸島会長

ありがとうございます。

新規事業も幾つか入っております。今の議事1につきまして、何かご質問等、今の時点でございましたら。どうぞ、高橋委員。

高橋委員

新規事業として出産・子育て応援事業が始まりますね。妊娠から産後までのケアを拡充、児童相談所の設置などもありますね。このような子育て支援施策の中で、問題は、各事業、連携して行うことが大事だと思うんですね。ばらばらに切れてしまうと、なかなか難しい。それから、こういった事業は、どうしても行政が中心になって行うところだと思うので、ぜひ十分予算をつけていただいて、支援をしていただきたいと思います。円滑に進むようにどうぞよろしく願いいたします。

丸島会長

どうもありがとうございます。

今の議事の1に関しましては、よろしいですか。千田委員、どうぞ。

千田委員

私立幼稚園等協会の千田と申します。

毎年、私立幼稚園のほうから区に対して、何か加わる補助がないかということでお話ししているところでありますけども、31年度においても、保育従事職員等への宿舍借り上げ支援あるいは保育士への奨学金支援制度、そういうのはみんな保育園の保育士さんに対してのことなんですね。これをどうにか幼稚園教諭もつけ加えさせていただければよいなと思います。幼稚園教諭の募集に関しても、なかなか難しく、求人を出した際に、住宅手当とかそんなものをつけば、採用につながるのかなとも思いますし、また、幼稚園教諭に対してこのような奨学金制度があれば、幼稚園教諭を目指そうと思う学生も増えると思います。

また、私立幼稚園等預かり保育補助として854万9,000円。長時間、長期休業中についての保育に対して補助をしてくださるというお話は、ありがたく受け取らせていただきたいと思います。ありがとうございます。

丸島会長

どうもありがとうございます。

それでは、議事の1に関しまして、ほかに何か、
よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

丸島会長

それでは、引き続きまして、議事の2、荒川区における保育の状況について事務局から
お願いいたします。どうぞよろしく申し上げます。

大森保育課長

保育課長の大森でございます。

それでは、資料2をごらんください。区の保育定員等の推移と本年4月の認可保育所の
申し込み数について説明をいたします。

まず1の保育定員等の推移です。ゼロ歳から5歳までのいわゆる就学前の児童人口は
年々増加していますが、30年4月は1万550人と前年比で142人の微減となりました。また、
保育利用児童数、こちらは認可保育園、認証保育所、保育ママ等の保育サー
ビスを利用している児童の数ですが、30年4月は5,405人、こちらは132人の増
加となっています。

次に、保育利用率、これは就学前の児童人口に占める保育利用児童数の割合ですが、3
0年4月は51.2%で、1.9ポイントの増加となりまして、初めて半数、50%を超え
ています。この保育利用率につきましては、24年から荒川区が23区でトップの高い割
合となっております。

次に、保育定員ですが、区では、これまで増加する保育需要に迅速、的確に対応するた
めに、あらゆる場所、あらゆる手法を活用いたしまして、保育定員の拡大に取り組んでま
いりました。しかしながら、29年度には申込者数が過去最高を更新し、30年度におい
ても、いまだ待機児童の解消に至らないことを受けまして、さらに31年度において、鉄
道敷地の活用等により新たな私立認可保育園を3園開設し、前年比で保育定員は235人
拡大することによりまして、31年4月の保育定員は、6,126人となる見込みでござ
います。これは平成26年からは1,207人の拡大となっております。

平成31年4月の認可保育所入所申込数等をごらんください。本年4月の認可保育所入
所に係ります第1次の審査結果をご報告するものです。

申込者数でございますが、1歳児、3歳児、4歳児で増加しましたものの、全体の申込
者数では前年比で84名の減となりまして、1,425名となりました。

また、承諾者数、こちらは入園の申し込みをした方のうち、希望の認可保育所に入園で
きた方の数になります。こちらは申込者数が減少しました結果、昨年より52人減少いた
しまして、1,132人となりました。

また、不承諾者数、こちらは第1次の審査で認可保育所に入所することができなかった
方の数です。昨年より26人減少しまして、277人となっております。

昨年と比べますと、不承諾者数、減少いたしまして、ここから第2次の審査で承諾者となった方の数を差し引きますので、さらに不承諾者数は減ります。最終的な待機児童数の昨年の80人よりは減少する見込みと考えておりますが、やはり待機児童ゼロには至らないというふうに見込んでおりますので、今後も喫緊にこうした状況への対応を進めていく必要があると考えてございます。

今後の対応策でございますが、区では、昨年度に引き続きまして、保育園の空きスペースを活用し、1年度限定ではございますが、待機児童の多い1、2歳児のお子様をお預かりする定期保育事業を実施してまいります。また、認可保育園の整備といたしまして、本年4月に区立東日暮里保育園の民営化によります日暮里保育園の開設に伴う20名の定員の拡大、また、西日暮里六丁目の京成電鉄鉄道高架下に定員60人、また、町屋二丁目、メトロの町屋駅の近接地に定員60名、またさらに7月には東日暮里六丁目、JR三河島駅前に新設されます複合建物、この中に定員50人の私立認可保育園を開設いたしまして、さらなる定員拡大を行う予定です。

さらに、32年4月に向けましては、東尾久三丁目の新設のマンションの中に定員50人、また、荒川五丁目、朝日信用金庫東尾久支店の中にも定員60人の私立認可保育園の開設を予定いたしまして、尾久地域での定員拡大を図ってまいりたいと考えています。

その他、保育課におきましては、認可保育園の入園審査の作業にAI技術を活用した入所選考システムを導入いたしまして、今年度約1週間早めました内定発表の時期をさらに早めることによりまして、保護者と区民へのサービス向上につなげてまいりたいと考えております。

丸島会長

どうもありがとうございます。

ただいま議事の2につきますと、保育課長から御説明がありました。何か今の時点でのご質問等ございますか。

最近、区役所の窓口では、「保育所が落ちたので幼稚園はあいていませんか」という相談が多いようですね。なかなか厳しい発言だなと思いますけれども、それはそれで受けとめるべきだろうと真摯に受けとめております。これだけ保育所がふえていっても、まだ足りないというわけですね。大変ですね。

この季節、転勤等で、荒川区内に引っ越してくる方もおりますので、幼児人口はまだふえるのかもわかりませんが、現状というのは、なかなか厳しいものがあるという気がいたします。

今の議事の2につきますと、ご承認をいただけたということで、次に進んでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

丸島会長

ありがとうございます。

それでは、続きまして、議事の3、平成31年度の学童クラブ利用申請児童数（一次募集）について、事務局からお願いします。

辻児童青少年課長

児童青少年課長の辻でございます。

31年度の学童クラブの利用申請児童数についてご説明させていただきます。

31年度の利用申請児童数につきましては、今年度の利用者より45名ほどふえて、1,552名というような状況になっております。一部の学童クラブでは定員を超える申請がありましたが、一次募集につきましては、委託先の事業者の皆さんにご協力いただきまして、受け入れ体制を見直すとともに、必要に応じて近隣クラブへの利用調整を行った上で、利用要件を満たす申請者全員に対して、利用の承認をさせていただいております。

なお、各クラブの申請状況は、資料のとおりでございます。

学童クラブにつきましては、32年度に（仮称）尾久小学童クラブの開設を予定するなど、今後も引き続き需要が増加傾向にあります地域におきまして、供給体制の確保に努めたいと考えております。

丸島会長

どうもありがとうございます。

ただいまの議事の3、学童クラブの件に関してということでご質問等がございましたら、挙手をお願いいたします。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

丸島会長

それでは、次に引き続きまして、議事の4に進ませてもらいたいと思います。

なお、先程の新規事業の中で、英語の検定の補助金がありましたけど、大学入試の中に英語検定の数値が参考にされるところがあるようですね。そんなことも参考になっているのでしょうか。そのための区としての施策になるわけですか。

瀬下指導室長

英語検定につきましては、これまでも荒川区では、小学校1年生から英語教育の充実を図り、教科化として平成16年度から取り組んできているところでございます。さらに英語教育の充実を図るために、児童・生徒の学習への関心・意欲を高める1つのきっかけとして、英語検定に対し補助金をというふうに考えております。具体的に申し上げますと、中学3年生の英語検定、年間3回ございますけれども、年間3回のうちの1回を補助するということでして、今回この取り組みによりまして、さらに英語を学ぶ意欲を高めていきたいというふうに考えております。

また、来年度の全国学力調査の中にも、英語の「話す」という調査が加わるということもございまして、そういった意味でも今回の補助は活用されるのではないかと、とても意義があるのではないかと、というふうにご考えてございます。

丸島会長

ありがとうございます。

もう一つお尋ねしますが、英語に関しては、教師は充足されますか。つまり、ネイティブの英語を子どもたちが聞き取ることができるかという問題なんですけれども。

瀬下指導室長

荒川区におきましては、まず小学校においては、NEAという外国人の講師を全校に配置しております。その外国人の講師、また、英語教育アドバイザーという専門的な知識を持っている方、そして担任の先生、3人の指導者によって小学校の英語教育の充実を図っているところでございます。

中学校の英語におきましては、NEAが常駐しておりますので、常に外国人の英語の発音に触れる機会が充実しているものでございます。

丸島会長

ありがとうございます。

それでは、引き続きまして、議事の4、荒川区子ども・子育て支援計画策定に関するニーズ調査の結果について、事務局からご説明をお願いいたします。

伊藤子育て支援課長

第2期荒川区子ども・子育て支援計画策定に係るニーズ調査の集計結果について説明いたします。単純集計結果を皆様に配付させていただいております。全部ご説明するのはお時間の関係で難しいですので、抜粋してご報告をさせていただきます。

調査の概要です。本調査におきましては、来年度策定する子ども・子育て支援計画の保育需要や子育て支援のニーズを把握するため、昨年9月20日から10月12日までに区内在住の未就学児、また、就学児のお子さんがある世帯を無作為に抽出した4,000世帯に郵送配付、郵送回収で調査を実施いたしました。

回答率は、記載のとおり64%、前回は59%でしたので、5ポイントアップし、多くの方に回答していただけたというところでございます。

調査項目といたしましては、未就学児がいる世帯におきましては34問、就学児がいる世帯におきましては27問で、家族の状況や保護者の就労状況、また、生活実態などをお聞きしたものです。

それでは、内容に入ります。最初は未就学児のいる世帯の集計結果です。8ページ(1)日ごろ子どもを見てもらえる親族や友人・知人について、問8でお聞きしたところでございます。64%の方が緊急時等は祖父母等に見てもらえるという回答でございました。しかしながら、区といたしましては、いずれも「いない」と答えた方が17%いらっしゃる

一時保育や一時預かりの支援をさらに充実していく必要があると考えております。

続きまして、9ページ(3)子育てに関して気軽に相談できる先について、祖父母が75.6%、また、友人・知人が68.8%と、高い状況となっております。しかし、誰も「いない」と答えた方が3.2%いらっしゃることから、この方々は孤立化するリスクがある世帯というふうに考えております。このような世帯には、サロンなどでの育児相談や365日いつでも相談できるキッズ・マザーズコール24、こういったものを活用して相談に乗ってもらうとか、また、今後、健康推進課で実施いたします出産・子育て応援事業などで保健師とのつながりをつくっていくことが必要でございますので、こういった機会を捉えて周知をしていくこととします。

次に19ページ(1)平日に利用している教育・保育事業、問15です。認可保育園を利用している方42.4%、また、幼稚園を利用している方が18.7%となっております。無回答が24%となっておりますが、これは平日の教育・保育事業の利用をお答えをいただいているので、この24%の方は、0～2歳児の在宅で育児をされている方たちが無回答という形であらわれているものです。

続きまして、26ページ(4)問16では平日に定期的に利用したい事業を聞いております。こちらは認可保育園は52.1%となっておりますが、幼稚園におきましては31.4%、また、幼稚園の預かり保育も含めた利用では、23.5%と、保育園に比べて幼稚園の利用希望はすごく上がっているところです。

次に、43ページの問19子育て支援事業の認知度でございます。こちらは の子育て交流サロンの認知度が87.1%と最も高い状況となっておりまして、次に あらかわキッズニュースが82.1%でございます。

次に、生活実態についてお聞きした項目で、77ページの問28では世帯の年間収入を聞いております。こちらは共働き世帯がふえていることからなのか、世帯年収が900万円以上という方が25.7%と最も高くなっている状況です。

次に、就学児のいる世帯の集計結果です。

94ページ(1)日ごろ子どもを見てもらえる親族や友人・知人、問8についてです。こちらは未就学児世帯に比べまして、友人・知人に見てもらえる方がふえておりまして、祖父母が52.8%で、友人・知人が28.6%となっております。

続きまして、95ページの問9で、気軽に相談できる人もお聞きしています。祖父母・親族等が66.4%、知人・友人が70.9%と、未就学児の世帯と比べて友人・知人のほうが小学生の世帯におきましては、相談できる人がふえている状況となっております。

115ページの問19で生活実態の世帯年収をお聞きしています。未就学児の世帯と同様に、900万円以上の世帯が29.2%と最も高くなっている状況でございます。

今後、この調査結果におきましては、クロス分析を行いまして、ニーズをより把握しまして、第2期子ども・子育て支援計画の策定作業に活用してまいりたいと思っております。

丸島会長

どうもありがとうございます。

しかし、回答率が64%というのは、かなり高いパーセンテージじゃないですか。それと、もう一つびっくりしたのは、年収で900万円というのは、かなりの高額所得だと思うんですけど、その辺は行政としてどう捉えていらっしゃるんですか。

伊藤子育て支援課長

基本的に世帯年収という形になりますので、父、母お二方の収入を足し合わせた収入ということになります。共働きの方の率が高くなってきている状況の中で、世帯収入としては高くなっていると感じております。

丸島会長

フルタイムで働くお母さんがふえているんですね。一般的なパートとか派遣とか短期の就労ということでは、そこまでの収入には、なかなかならないであろうという気がするんですけどね。

議事の4、荒川区子ども・子育て支援計画策定に関するニーズ調査の結果については以上とさせていただきますが、よろしいですか。

丸島会長

高橋委員。

高橋委員

900万円以上の方がこれだけいるというのは非常に驚きです。最初の調査の段階で、生活にかなり余裕がある人たちが回答してきた、64%というのはそういう人が乗ってきたというようなことはないでしょうか。

伊藤子育て支援課長

実際には、詳しく分析したいと思っておりますが、認可保育園に入っている方たちの保育料を算定すると、この割合からあまり外れないぐらいということになっております。忙しくてなかなか答えてくれない方もいらっしゃいますので、少しバイアスがかかっていることはあるかもしれませんが、共働きの中でもフルタイム同士ということがふえていることから、世帯年収で見ると、このような傾向になっているということだと思えます。

高橋委員

ありがとうございます。特に認可保育園のベースはしっかりしたものですから、非常にわかります。ありがとうございました。

丸島会長

ありがとうございます。

それでは、引き続きまして、議事の5、幼稚園教育及び小学校教育の一層の充実を図るモデル事業の実施について、事務局、よろしく願いいたします。

瀬下指導室長

荒川区におきまして、東京都の、仮称で幼稚園教育となっておりますが、私どもとして、就学前教育というような名称で呼ばさせていただきます。就学前教育と小学校教育との一層の充実を図るモデル事業の指定を受けまして、就学前教育のより一層の拡充と、就学前と小学校の円滑な接続による小学校教育の充実を図るモデル事業を実施することについて、ご報告をいたします。

モデル事業の目的として、5歳児から小学校低学年までの3年間をひとまとまりにいたしまして教育課程を開発し、就学前教育を充実し、魅力を高めるとともに、就学前と小学校の接続を円滑にすることで、小1問題を改善・解消していくことを目的としています。

次に、現時点で想定されるモデル事業の全体像ということで、モデル幼稚園の5歳児クラスで小学校1・2年生において、遊びの中で学習的な要素を取り入れたり、学習の中で遊びの要素を取り入れたりする指導内容、指導時期、指導方法、指導時間、環境、そういったものを研究していくものです。

今後、このような具体的な新たな教育課程案について、有識者のご意見を伺いながら、東京都と荒川区が共同で編制していくものです。モデル事業の検証についても、東京都と荒川区の共同で実施いたしまして、成果を東京都全体の幼児教育に反映してまいります。

次に、モデル園以外の幼稚園や保育園に対して、1つはモデル園による公開授業等を公私立幼稚園、公私立保育園園長先生、校長先生及び教員の研修等に活用しながら、成果を共有し、実践を広げることで、荒川区の幼児教育の充実につなげてまいります。また、公私立幼稚園、公私立保育園との連携事業を一層強化していきたいと考えております。

次に、モデル事業実施の幼稚園と小学校でございます。幼稚園は町屋幼稚園、小学校は第七峡田小学校となります。町屋幼稚園と第七峡田小学校に決めさせた理由といたしましては、同じ敷地内で幼稚園と小学校があることです。また、園児が小学校に通って学習するというような場面も見られますので、そういった敷地の環境ということで考えさせていただきました。学校長が町屋幼稚園園長を兼務していることも1つです。小学校教育についての理解が必要であるという点から、この2つの幼稚園と小学校を決めさせていただきました。

次に、モデル事業の開始年度です。平成33年度の5歳児クラスからモデル事業を開始いたします。当該園児は、平成31年度入園の園児になりますので、昨年10月の園児募集時から当該児童につきましては保護者の皆様に周知したところでございます。

丸島会長

ありがとうございます。

香川委員

私も北豊島幼稚園にいましたけど、小学校と幼稚園との共通点を図ると、いろいろと交

流する難しさがあるんですね。その点では、荒川区自身が小学校と幼稚園でやりたいと説明がありましたけど、この連携の仕方というのは、現場の先生方も理解されないといけないし、非常に難しい問題です。平成33年を目標にしていますけど、荒川区が私立も公立も一緒にやってもらえるとよいですね。ぜひお願いしたいと思います。

瀬下指導室長

これまでも幼稚園、保育園のほうから小学校に入った段階でなかなか環境の変化になじめないお子さんですとか、また、学習にすぐに取り組めないお子さんなどの不適応な状況のお子さんも見られてございました。そういった意味からも、小学校の段階で円滑に幼児教育からうまく接続できる環境、教室環境も研究の1つになっておりまして、いきなり幼稚園や保育園の温かい雰囲気から教室に入って、勉強となるような、そういう雰囲気ではなくて、小学校の教室でもない、幼稚園や保育園の教室でもないような、そういった環境も研究していこうとすすめておりまして、荒川区の幼児教育、小学校教育が充実していくことを願っているものでございます。

丸島会長

ありがとうございます。

引き続きまして、議事の6、荒川区出産・子育て応援事業の実施についてお願い致します。

尾本健康推進課長

健康部健康推進課の尾本と申します。よろしくお願ひいたします。

健康推進課は保健所の中にございまして、母子保健を所管しているところです。

それでは、説明をさせていただきます。平成31年4月から、荒川区では新規事業として、荒川区出産・子育て応援事業を計画しています。この事業のポイントですけれども、妊娠から出産、子育て期までの切れ目のない支援を充実するために、妊産婦に対する全数面接及び支援プランを作成いたしまして、また、子育てパッケージ等を配付いたしましてという内容になっています。

国は、平成32年度末をめどに、子育て世代包括支援センター事業を全国に展開することを目指しております。全ての親子を対象として、地域特性に応じた妊娠初期から子育て期にわたる保健・医療・福祉・教育等の地域の関係機関による切れ目のない支援を提供する体制の構築を進めています。

区では、今までにも母子保健分野と子育て支援分野が連携・協力しながら、妊産婦と子などに対する支援事業を既に実施しておりまして、昨年11月には子育て支援アプリ「あらかわすくすく子育てアプリ」の配信を開始しています。

今回の事業によりまして、これまで以上に妊産婦が安心して子どもを産み育てられる体制とするために、保健師等による妊娠・出産・産後子育て期を通じた個別の支援プランの策定とプランを活用した継続的な支援体制づくりが必要であるということです。

事業の概要です。大きく3つございますけれども、まず1番目が妊婦面接の全数実施です。妊娠届出をしていただく際に、専門職、助産師、保健師等が全ての妊婦さんとお会いいたしまして、顔を合わせて面接を実施するというものです。その中でニーズを聞き取る、家庭の状況のお話をいただく、ご相談に乗るということをいたしまして、その後の相談事業、乳幼児健診等の区の事業においても、引き続き継続的な把握・支援ができるように、まず顔の見える関係性をつくるというのが面接の大きな目的です。

2つ目は、支援プランの策定です。この支援プランというのは、予防的な視点をもって保健師等が妊婦と一緒に作成・共有しまして、プランに基づく相談、情報提供、助言、保健指導を行うものです。一度作りました支援プランにつきましては、その後の母親学級、両親学級、乳幼児健診、各種相談事業、支援事業等の行政サービスを利用する際に、母子手帳とともに持参いただきまして、継続して活用します。また、プランの内容を確認して、もし状況に変化があれば、ニーズに応じてプランを改定していくというものです。

3番目が子育て世代包括支援センターの機能整備ですがけれども、出産・子育て応援事業を荒川区が実際に行うことにより、荒川区でも子育て世代包括支援センターの機能が整備されるということになります。

資料をご覧ください。あら坊とあらみいの手づくりおもちゃの写真が出てまいりますけれども、子育てパッケージというものでございます。育児パッケージをご用意いたしまして、面接のきっかけとし、どうぞお越しく下さい、妊娠おめでとうございますという気持ちを込めております。カタログの中から、どれか1つを選んでいただくつくりをしています。

あら坊とあらみいのおもちゃにつきましては、荒川マイスターの千葉様がこのために開発いただいたもので、2つ目のベビーフォトフレームにつきましては、荒川区伝統工芸技術保存会の吉田様が開発をいただいたもの、3つ目のママバッグにつきましては、西尾久の石原商店様のほうで哺乳瓶及び母子手帳の大きさに合わせたポケットをつくっていただいて、このために開発をいただいたものでございます。このようなものをご用意して、面接にお越しいただけたらというふうに考えております。

A3の資料、「荒川区出産・子育て応援事業」のイメージ図になっています。上半分が母子保健事業の今あるものの総覧でございます。下半分が子育て支援事業、今あるものの総覧でございます。真ん中あたりに「連携」というふうに書いてございますけれども、これまで以上に母子保健事業と子育て支援事業が連携しまして、荒川区の中の子どもが育っていく環境をもっとよりよいものにしていきたいというものです。

支援プランの作成において、私どものほうでは、児童虐待の未然防止のところにも働きかけができるのではないかとこのように思っております。そのほか、経済的なところにつきましても、また、お母さんのメンタル面でも、いろいろなところで予防的な働きかけができるのではないかとこのように思っております。子育て・出産応援事業によって、妊娠中からのサ

ポートが受けやすくなりますこと、それから、出産後の支援策とあわせると、妊娠期からの切れ目のない支援体制が整っていくということになるのではないかと考えています。

丸島会長

どうもありがとうございます。

それでは、今のところでご質問、ご意見等々ございましたら、挙手で。

よろしいですか。

どうぞお願いいたします。

清水委員

区民公募委員の清水と申します。

とてもすばらしいプランだと思うんですけど、A4サイズで母子手帳に入れるというのはすごくいいと思うんですけど、かなり文字が小さくなり、実際に活用されるかということで、どうですかね。でも、このプランがあるというのは、すごくいいことだと思うので、母子手帳を申請したときに受け取るパッケージと一緒に、クリアファイルかなんかに入れるとよいかもかもしれません。内容自体は本当にすばらしいし、ありがたいプランだと思うので、活用できるように、字の大きさですとか、見やすさなどを検討していただけると、活用されるのではないかなと思いました。

尾本健康推進課長

貴重なご意見、ありがとうございます。私どものほうでも活用していただきたいと考えてございますので、大きさ等につきまして、検討させていただきます。

丸島会長

ほかに今の議事でご質問等がございましたら。

藤間委員。

藤間委員

これは、荒川区に在住されている段階で妊婦になられて、保健所で交付を受けたときに発行されると思うんですけど、他区などで妊娠が発覚して、母子手帳をもらい、それから、妊娠中に荒川区に来た場合というのは、どのような対応をされますか。教えてください。

尾本健康推進課長

妊娠届出の場合には、全部が保健所のほうに集約されてまいりますので、どなたがというのは、把握できます。今、お話にありました転入の場合には、特別なご連絡がなければ、私どものほうでわからない場合もございます。

まずスタート段階としましては、妊娠届出からと思っていますけれども、今のご意見、非常に貴重なご意見だと思いますので、今後、転入の方の場合についても検討してまいります。

藤間委員

とても素晴らしいプランだと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

丸島会長

ほかに今のところで、さすがにお母様方は非常に関心の深い部分でしょうかね。ご質問よろしいですか。

それでは、本日の議事につきましては、ここまでですので、今までのところのご説明又は会議についてご質問等ございましたら、順番になってしまいますが、中野委員からお願いしてよろしいですか。ご意見がありましたら、どうぞよろしくお願ひします。

中野委員

この会議に参加しまして、幼稚園、保育園、公立、私立、そしてそれぞれの保護者の方のご参加ということで、意見をたくさん聞かせていただいて、多くのことを学ぶ会議だったと思っています。その中で、それぞれの施設が特徴を持って、荒川区の子どもたちの養護と教育を担っているわけですが、先ほど幼稚園と小学校ということで、縦の連携のモデルケースが出てきたんですが、なかなか幼稚園と保育園という横の交流とか連携はまだまだ十分ではないのかなというのが現実ですので、こういう会議に参加できたことを契機として、横の連携で同じ5歳児の子どもたちが幼稚園児と一緒に遊べたり、また、幼稚園の先生たちに乳児の保育を見に来てもらったりとか、そんな横のつながりが広がることができればいいかなということを感じました。

丸島会長

ありがとうございます。

それでは、柳田委員、よろしくお願ひいたします。

柳田委員

会議に参加させていただき、どうもありがとうございました。

荒川区は本当に子育てのしやすい区ということで、全国的にも評判がとってもいいということがよくわかりました。特にお母様を支えるさまざまな事業を立ち上げていただいているというところが、子育てしやすい区になっているんだなということを実感として感じております。

例えば、今回、「荒川区ゆりかごプラン」というところでお示しいただいた、お腹の中に子どもを授かってから、子どもを育てていくときにこうやってサポートしていただけたら、家庭の中で一人でさまざまな悩みごととか抱えている方が救われるし、それが子どもの健やかな成長につながっていくだろうというふうに感じました。

プランを見ていくと、例えば自分の幼稚園のところがかかわってくるのは、ファミリーサポートでの送り迎えですとか、それから、保育園から妊娠の情報が提供されるなどですが、それぞれの機関が抱えるのではなくて、連携をしながら、情報を共有して支えてあげるということを役割として担っていきなというのを改めて感じました。幼稚園でも

伝えていきたいなと思いました。本当にありがとうございました。

丸島会長

ありがとうございます。

清水委員、お願いいたします。

清水委員

私もこちらに参加させていただいて、非常に勉強になりました。

今回の議事の中でちょっと気になったのは、子ども・子育て支援の策定にかかわるニーズ調査の中で、子どもの貧困や経済的な部分でも生活的な部分でも、底辺の人たちのことが浮かび上がってこないようなアンケートのとり方というのはどうなんだろうなど。もう少しアンケートのとり方や、情報の収集の仕方に何か工夫が必要なんじゃないかなと思いました。

例えば、ゆりかごプランに関しても、いろんなサポートが組み立てられていて、素晴らしいものだというふうに見えますけれども、例えばクマちゃんとか書かれていて、妊娠、出産は幸せだと思える母親と、妊娠したけど、どうしようとか、望まない妊娠というケースもあるわけじゃないですか。そういうふうになったときに、果たしてどういうサポートができるんだろうと思ったりもしますので、底辺の部分とか、ネガティブな部分があまり拾えていないニーズ調査のあり方に疑問が生じました。

それから、ゆりかごプランに関しては、本当に手を尽くされていると思いました。昔は地域のおせっかいおばちゃんとか、おせっかいなお姑さんや小姑とかがいたりして、そういう中で妊娠、出産という時期を乗り越えてきたと思うんですね。このプランがそういうものにかわるものになっていったらよいと思いました。

私認証保育所を経営しているものですから、近所の妊婦さんとか、通われているお母さんたちの第2子の出産などにかかわることもたくさんありますので、その方たちに寄り添った保育園のあり方も今後模索していかなきゃいけないんじゃないかなとも思いました。

ありがとうございました。

丸島会長

どうもありがとうございます。

それでは、小西委員、お願いいたします。

小西委員

本日は大変勉強になりました。特にゆりかごプラン、これは私立の園長先生たちが知っていたほうが参考になると思うので、私立園長会で、できましたら説明に来ていただけるとありがたいなと思います。

それと、今、清水委員がおっしゃられたように、望まない出産という方もおありになる。そういうことも配慮した画面の映りの工夫があったらいいのではないかなと思います。

それと、外国籍の方はプランを読める方ばかりではないので、その辺もご配慮いただく

のと、それから、先にこのプランを受け取ると負担を受けるという人たちもいるんじゃないかなと思うので、その辺を小冊子で、どこそこをめぐったら参考となるようなつくりもあるといいのかなという感じがいたしました。

それと、もう一つ、幼稚園教育及び小学校教育の一層の充実を図るモデル事業の実施、私も希望していますが、その前に、保育所保育要録のあり方を学校でご検討いただけないでしょうか。幼稚園要録もおつくりでいらっしゃると思いますが、保育園の保育所要録、このたび保育指針が改定になりまして、その中で要録も厚生労働省から新たな改定が出ました。そういうところも先に酌み取っていただいて、充実を図るモデル事業のほうに進んでいただきたい。私どもはこのたび厚生労働省から保育所要録の説明がありました。ゼロ歳から5歳までをイメージした育ちの姿を書きなさいという指示が来ております。ゼロ歳、1歳、2歳、3歳、4歳、5歳までのこの子の特徴を書きなさいというふうにされています。それを書くには、私たち保育士の段階ではすごく難しいことなんですね。そういうものを書いて学校にお持ちして、多分、たくさんの生徒さんがいらっしゃるから、それを読むというのは、大変だと思うんですが、私たちのほうも努力して、見やすい形で書いていきたいと思っておりますので、そこを少しご配慮いただけるとありがたいです。この前、幼保一体の保育園が小学校の先生と一緒に作成した「わくわく」という本がございます。連携について小学校の校長先生が大変力を入れて、一緒になってつくりましたので、ご参考にさせていただくとありがたいと思います。

丸島会長

ありがとうございます。

今のを要録の件に関しまして、何かございましたら。

瀬下指導室長

指導室長です。貴重なご意見をいただきまして、大変にありがとうございます。

私も小学校の校長をさせていただいておりますので、保育所からの要録については、1年生の担任と校長が丁寧に読ませていただいて、学級をどのように分けていくか、また、この子へどういった配慮ができるのかということに大変に参考になったという覚えがございます。今回、就学前教育と小学校教育の研究に対しましても、今の貴重な保育所要録につきましても、参考にさせていただきながら、研究を進めていきたいと考えてございます。

丸島会長

ありがとうございます。

小西委員、そういうことでご理解をいただければと思います。

高橋委員は所用でご退席なされましたので、千田委員、お願いいたします。

千田委員

私立幼稚園等協会の千田と申します。

先ほど公立の幼稚園のモデル事業実施園の話がありましたが、これは以前に教育委員会の学務課長さんから伺った話が、いよいよ実現するんだなということで、大いに期待しております。

残念ながら、荒川区には私立幼稚園と私立小学校の連携がないので、公立の小学校と幼稚園のモデル事業が、私立幼稚園でも参考になるようにと大いに期待しておりますので、よろしくどうぞお願いいたします。

それから、10月からの幼児教育無償化ということで、いろいろな情報が出ていますが、幼児教育無償化というのは、幼稚園、保育園、認定こども園等については一律に無償化ということだと思のですが、荒川区ではどうしてこういうふうにならぬ幼稚園と保育園が別々になってしまうのかなという、少し平坦にならないかなというような希望を持っております。何か回答があれば、お返事があればいただきたいと思います。

伊藤子育て支援課長

現状、私立幼稚園に対しての支援という中で、なかなか難しい状態となっているところではございます。今回、幼児教育の無償化という形で、保育園と幼稚園の3歳から5歳の無償化制度が始まっていく中で、保育園を選ぼうと、幼稚園を選ぼうと、基本的には同じ形での教育、保育ができる体制整備を行っていけるように、検討したいと考えております。

丸島会長

なかなか難しいですね。例えば北欧諸国のように、かなりの高額の納税をして、かわりに住まいとか子育ては行政が面倒を見ますよという国もあるわけですね。ただ、我が国の場合にはそういう制度ではありませんので、なかなか難しいところもあるのかなという気がしますけど。どちらにしても、子どもは次の日本を担っていくことだけは間違いありませんので、ご配慮いただければありがたいと思います。

それでは、渡辺委員、お願いいたします。

渡辺委員

10月から無償化になるとは思いますけども、保育園は給食の件で実費負担というお話もでございます。できるだけ給食費を保育園で徴収しないような方法をやっていただけたらありがたいと思っております。

それから、荒川区が1、2歳児を配慮してございまして、空いているクラスを利用させていただきました。今回1、2歳児をやらせていただきましたら、10名とるところを30名入ってきました。

もう一つは、入園を審査する場合、本当に大変なご苦労をされて、指数化しています。AIということも導入されるそうですが、それはそれとしてよいと思うんですが、個別の配慮も少しケースとして残していただたらうれしく思いますし、柔軟な配慮をしていただくことが本当の福祉サービスではないかなとも思います。

それからもう一つ、企業内保育所って、荒川区にございますか。

柴田保育調整担当課長

ご質問ありました企業主導型保育事業につきましては、現時点では荒川区内はございませんが、町屋駅前の近くに平成31年4月ごろの開設が予定されています。こちらは国で所管する事業となっておりますが、区の保育課にも以前からご相談いただいていた案件でございます。

丸島会長

それは企業が保有する保育所ですか。それとも企業の中の人のお子さんのための保育所ですか。渡辺委員もその辺がお聞きになりたいんですね。

渡辺委員

どうしても企業内のスタッフが認可保育所に入れない場合には、企業主導型保育所に入りたい、でも、空いていたら地域の皆さんにも入れてさしあげるとする方法をする企業主導型保育所があったらと思いました。

柴田保育調整担当課長

説明が足りず、すみません。まず、地域型保育事業の事業所内保育事業につきましても該当はございません。また、企業主導型保育事業につきましては、31年4月ごろに町屋駅前の場所に開設が予定されている状況となっております。

渡辺委員

老人ホームとか老人保健施設とか、保育園でないところで働いている方をどうすくい上げていくか。病院もしかり。それをちょっと考えてほしいと思いましたので、よろしくお願いします。

丸島会長

わかりました。

もし新設の告知がありましたら、教えていただきたいということになりましようかね。

春田委員は先ほどご退席なされたようで、恵美須委員はご欠席ですので、では、香川委員、お願いいたします。

香川委員

私の感想を述べて終わりたいと思います。

きょう、いろいろと出ましたけど、しつけということで子どもの命が奪われているという、児童虐待、これを深刻に考えなくちゃいけない。しつけと言いながら、実は虐待している。ご存じのように、テレビ、新聞に出ている千葉県野田市の小学校4年生の女の子の事件を考えると、もう一度、しつけというのは何なのかというのを考え直さなきゃいけない。東京都でも体罰禁止の条例を出しているんですけども、しつけをすることと体罰というのを真剣に考えなきゃいけない。スウェーデンやドイツなどのヨーロッパでは体罰を法律で禁止しているんですよ。日本なんか、ずっと下位です。そういう意味で、体罰の問題を深刻に考えてみたいと思います。

教育委員会は区の組織の中でも、家庭、子どもを守っているんだという、各家庭の親にも意識してもらいたいですね。しつけと言いながら、実は暴行ということが影に隠れているということを忘れてはいけないんじゃないかなと思っています。

きょう、議事の中にも子どもの施策でいろいろありましたけども、荒川区の子ども・子育て会議のほうでこれだけのすばらしい準備して子どもを守っていく。子どもは親任せではいけないということを思いました。私は、そういう意味で、子ども・子育て会議というのが決して無駄にならないように、区民と力を合わせてやっていけばいいなと思います。

丸島会長

ありがとうございます。

それでは、藤間委員お願いします。

藤間委員

私立幼稚園等保護者代表の藤間です。きょうはありがとうございました。

千田委員のご意見を聞いて、私立幼稚園等にも保育従事職員等への手当を行っていただきたいなと一保護者としても思いました。先生が不足していれば、必要な幼児教育も保育も受けられないので、私たち保護者としては、そうなると大変困るような状況になってきますので、ぜひそちらのほうも今後ともご検討いただいて、手厚くしていただければと思っています。

保育園のこととかニーズ調査とか、きょうもたくさんの資料があったんですけど、私は、子どもを4人育てている段階なので、新事業の出産・子育て応援事業の実施がとても興味深かったところです。ケースを想定されて、たくさんの情報を盛り込んだ資料をつくっていただいて、いろんなケースが考えられると思うので、現場の助産師さんや保健師さんは試行錯誤しながら、このようなものを今後つくっていかれるかと思います。初めての出産というのは、いろんな情報誌だったり、インターネットとか、通っている病院の担当の看護師さん等から情報を得て、こういうことを行っていくんだなというのをその場その場で知っていくことがたくさんあるんですけど、先を見据えた情報を持っていることで、そろそろ私も保育園のことを行動しないといけないんだとか、どこに健診に行ったらいいのかなという情報を一目で見られるというのは、本当に安心できる材料になってくるのかなと感じました。

ただ、小西委員たちからのご意見でもあった、望まれない出産をされる方への配慮というのは、とてもナイーブなところで難しいかと思うので、今後ご検討していただければと思います。私は4人も生んでいますので、ベテランと思われていますけれども、一人一人子どもは違っていますので、いろんな情報を自分からとりに行くには限界がありますので、区のほうからこのようにして提示していただけるのはとても安心できる材料になります。ありがとうございました。

丸島会長

どうもありがとうございます。

それでは、ラットフォード委員、お願いいたします。

ラットフォード委員

区立幼稚園保護者代表のラットフォードです。お願いします。

町屋幼稚園では、すでに年長さんが七峡小のほうに行って、1年生の子がいろいろと校舎の中を案内してくれるという学校見学を行っているそうです。子どもたちはとても楽しそうで、1つ上のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちが一緒に回ってくれて、ここが図工室だよ、こういうことをするんだよといったようなことをいろいろ教えてくれたということで、そのまま町屋幼稚園から七峡小に行く子も五峡小に行く子もいるんですけども、学校の雰囲気というのがすごく伝わったんじゃないかなと思います。

同じ敷地内ということもあるので、夏には、ふだんは幼稚園の小さいプールでしか泳いだこともない子も、小学校の大きいプールで泳がせていただいたりとか、幼稚園の子がつくったものを小学校の展示会で展示していただき、それを一緒に見に行ったりとか、そういうことが少しずつ学校になれていくという意味では、プラスになっているのではないかと考えています。

前回の子ども・子育て会議のときに、就学前教育というのを、少しずつ生活面のほうからというようなお話があったと思うんですが、今回の資料5番のイメージ図のほうで、一番上の習熟度別指導を活用した相互接続という部分が5歳児にもかかっているというのは、小学校ですと、算数のクラスが理解度が高い子、そうでない子と3クラスに分けて行うことが多いんですが、そういったことが5歳児から始まってしまうのかなというのが1点と、幼稚園のうちから、例えば算数を少しずつ始めてみようとか、そういったことが始まるのかどうか、お聞かせいただければと思います。

瀬下指導室長

そのところは、大事な箇所であるということで研究を進めているところでございます。大事な点といたしましては、今回の取り組みは決してエリート教育をするということではないということが大事なところでございまして、今回のイメージ図はあくまでも仮称の時点でのイメージ図でございまして、こういった形で町屋幼稚園の5歳児のお子さんに遊びの段階で学習的な内容を行い、そういうものをもって、第七峡田小学校の1年生になったときに、また、違う幼稚園から入ってきたお子さんとどういうふうに学習を振り分けるのか、今、研究中でございまして、習熟度別というのは、算数で今、取り組んでいる習熟度別とは若干違うというふうに捉えてございます。

ラットフォード委員

ありがとうございます。

丸島会長

それでは、磯野委員、お願いいたします。

磯野委員

私立保育園保護者代表の磯野です。

いろいろと今日もためになるお話を聞かせていただいて、ありがとうございました。

私の中ですごく印象に残った言葉として、資料6の説明のところで出てきた、顔の見える関係性という言葉があったかと思います。子育てプランのお話をされたときに、担当の保健師の方というのがいらして、顔の見える関係性というのをおっしゃったんですけども、やっぱり顔を合わせてかかわった方へは、本音の部分がぼろっと出たり、自分の弱いところがぼろっと出せたりということがあるかと思います。すごく大事なキーワードだなというふうに私は感じました。

児童相談所なども設置を予定されていてというところがあるかと思うんですけども、箱が整ったところに行く一歩というところで、顔の知らない人のところに足を運ぶのはハードルの高いところもあるのかなと思いますので、顔の見える関係性というところ、妊娠されている子育て支援のところだけでなく、幅広いところに拾っていただいて、ぜひ顔の見える関係性ということで、自分の弱いところを出せるような環境づくりというのをしていただけるとありがたいなというふうに思います。

人と関わるのが得意な方もあれば、関わるのがすごく苦手な方もあると思いますので、そのあたり、ご配慮等、大変かと思いますが、心配りをしていただければと思います。ありがとうございます。

丸島会長

どうもありがとうございます。

それでは、清水委員、お願いいたします。

清水委員

区民公募の清水渚と申します。

前回の会議から今回の会議の間で感じたことが2点あって、今年もインフルエンザが流行して、娘の通っている保育園でもかなりの数とか、近隣小学校でも学級閉鎖を行ったということを聞くんですが、インフルエンザの注射は1回4,000円前後して、子どもは2回やるんですけど、注射を打てる家庭と打てない家庭が出ているなというのを感じています。他の区ですと、助成が出ているところもあるようで、荒川区としては、今後考えていただける余地があるのかというのが1点で、2点目は、先日、保育園の入園申し込み発表がありました。保育課の皆さんはすごく大変な作業だったと思います。ありがとうございました。

自分も下の娘の申し込みをして気がついたんですけど、大体みんな育休を1年とって、1歳児の申し込みが多くて、今回の資料でも1歳児の不承諾や待機児童が多かったと思う

んですけど、今回、自分が体験して思ったのは、1歳児の枠というのが、ほとんど園に兄弟がいる子で埋まるところが多いんじゃないかと思っています。兄弟がいると加点がつきますので、そこで入って、余った枠で新規の子が入れるのかなと思っています。また待機対策として、荒川区は育休を2年とると、プラス2点という策をとっていると思うんですけども、上の子がいると、下の子が1歳を超えた年度末までしか在園できないというルールがあって、そうすると、今、企業的にも育休3年とか育休はとれるんだけど、それを使うと上の子が保育所を出なきゃいけないから、やっぱり1歳で申し込まなきゃいけないという現状があります。他区ですと、下の子が2歳を超えた年度末までいられるところもあって、今の問題としては、1歳児の待機が多いと思うので、もし余地があれば、この辺の検討はどうかと、今回、保育所の発表を見て感じました。

丸島会長

ありがとうございます。

それでは、寺内委員、お願いいたします。

寺内委員

公募委員の寺内です。

子ども・子育て会議の内容ではないのかもしれないんですが、女子医大が再来年、他区に移るということで、次に入る病院が決まったというのをつい最近、耳にしまして、そこらは産科も婦人科もあるんですが、系列の病院でしか産めないという話が挙がっているというふうに児童館の先生から伺いました。前回の会議のときに、産後ケアについて、今は南千住のほうの病院しか対応していないけれども、ほかの病院でも対応してもらえるようになったらいいんじゃないかというふうに恵美須委員かどなたかがおっしゃっていた記憶がありまして、産後ケアにも力を入れていこうという中で、次の病院が産科のない病院で入るとするのは、今ある産科の負担が大きくなるかなと思います。

それから、今、上の子を在宅で育てていまして、保育園の一時保育を不定期に利用させていただいています。去年の夏ぐらいから使わせていただくようになったのですが、そのときに予約をとりにくい時期というのがありまして、ちょうど今、その時期なんだそうなんですけれども、幼稚園がお休みに入ると、兄弟そろって一時預かりを利用したいという保護者の方がふえるので、枠がすぐ埋まってしまおうと説明を受けました。先ほど、幼稚園、保育園の先生方から人材の確保ということでお話があったんですけども、一時預かりのほうも常に人数をとということではなくて、必要な時期というのがあるそうなので、そういうときだけ短期で人がふやせるなど、1年間通してずっと働くのは難しいけれども、この時期だけだったら大丈夫という人の採用ですとか、必要なときだけ動ける人って、実はいるような気がしますので、そういうところにも補助を回していただけたらいいのかなというふうに思いました。、お金の援助はもちろんなんですが、人材の募集の仕方というのも考えていただけるとありがたいかなと思います。

丸島会長

ありがとうございます。

各委員のご意見を伺いましたので、事務局として、阿部部長のほうで特別な説明がございましたら、お願いいたします。

阿部教育部長

教育部長の阿部でございます。本日、幼小のモデル事業についてご報告いたしました。これにつきましては、指導室長のほうからもご説明いたしましたとおり、就学前教育の質の向上と就学前教育と小学校教育との円滑な接続を図っていくということで、幼稚園あるいは保育園の中で今まで学んできたこと、あるいは生活してきたところと、小学校でも例えば教科書を使った学習に入っていきといったところで、小1プロブレムの状況というのがまだまだ起こっているという状況がある中で、荒川区として、東京都のモデル事業を受けまして実施するものでございます。

先ほどいろいろご意見いただきましたとおり、荒川区においても就学前教育プログラムを小学校の先生がつくったりとか、そういった下地はできているものと考えています。また、先ほどご質問いただいた七峡小での町屋幼稚園との連携も既にやっているようなところもあります。今後、さらに教育課程というような形にはなりますけども、円滑な接続ということを目指して、東京都で初めての取り組みでございますので、荒川区がしっかりと進めることで、幼稚園だけではなくて、保育園においても、あるいはほかの就学前施設においても、そういった幼児教育の効果が発揮されるようにこれから取り組んでまいりたいと思っております。

それから、もう一つ、出産・子育て応援事業についてのご報告もいたしましたけれども、これにつきましては、教育委員会としても、大変貴重な事業だと思っております。生まれる前からの家庭へのサポートというものが、その後の幼児教育、保育を行っていくことでさらに義務教育段階、小学校・中学校教育にも生かされていくだろうと思っておりますので、教育委員会といたしましても、しっかりと連携をとりながら進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

丸島会長

ありがとうございます。

特に幼小の連携に関しましては、ご担当のセクションだと思いますので、いろんなご質問も出ておりましたので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、子育て支援部ということで、青山部長、お願いいたします。

伊藤子育て支援課長

すみません。その前に清水委員と寺内委員から質問のありましたインフルエンザのことに関しまして、今回のニーズ調査、9月に実施したところですけども、自由意見欄の中で

も、予防接種の負担といった意見がございました。特に1回3,500円から4,000円ぐらいということで、小学生までは2回打たなければいけない、お子さん1人だったらいいんですけども、お子さんが2人、3人いらっしゃるとなると、2万円、3万円、しかも毎年受けないといけないという中で、負担が大きいというお声がありました。ただワクチン自体も、打ったからといって必ず予防できるわけではないという医学的などところがありますが、打ちたいけども、経済的などところで打てないといったところの家庭に対する支援というのは、区としても検討していかなければいけないという視点は今、持っているというところ です。

また、寺内委員からありました女子医大が他区へ移って、新しく入る病院では産科を設け出産は出来ませんが、妊婦健診は行うこととし、実際、出産のときには東京リバーサイド病院のほうで対応できると伺っております。産後ケアにつきましても、開始当初は、区内2カ所ということで、南千住のリバーサイド病院とたんぼぼ助産院の南千住地区でした。現在、尾久のほうにはないんですけども、綾瀬駅から徒歩2分ぐらいのところにあります綾瀬産後ケアセンター、上野駅すぐの永寿総合病院も実施医療機関となりました。

31年度には、訪問型という形で病院まで行かなくても自宅に来てもらえる制度もできました。自宅に訪問して育児相談だったり、乳房の相談が1回1,000円と安い金額で手軽に相談できるようになりましたので活用していただけたらなと思っております。

青山子育て支援部長

本日はお忙しいところをご出席いただきまして、また、本当に貴重な意見をいただきまして、ありがとうございました。

私のほうから、1点だけお話しさせていただきたいと思います。私が常々思っているのは、子どもというのは、生まれるという受け身でしかこの世に生を受けられないという。そして、生まれてきた子の社会というのが生きやすい、過ごしやすい、成長しやすいものなのかどうかを考えていって、そのためには子どもに対する支援というのは、もっと必要なんじゃないかという個人的な持論として持っております。

そういう観点の中で、先ほど世帯年収の話がちょっと出ました。900万円を超える世帯が25%以上ということで多い、その一方で、グラフを見ると、200万円未満の世帯が2%、3%いると。これは全体の母数からすると、100を超える世帯がいわゆる貧困状態にある家庭と子どもは見ています。ここがどんな困難を抱えて、どんなニーズを持っているのかが、そこはクロス集計等を駆使して、区としてしっかり現状を把握して、それに対して何ができるのかというのは真剣に取り組んでいきたいというふうに思っております。

そして、その延長線上で、いわゆる望まない妊娠というお話もございました。結果として母体保護という形になるのか、また、出産して、特別養子縁組的などところで行政のほうで力を尽くすのかというのがあるかと思っております。今後、児童相談所を開設するとなれば、

荒川区としても取り組むべき仕事になってまいります。そういった子どもの全体的な生涯を通した幸せというものを考える上で、今回、本当にいい機会になったなというふうに思っておりますし、今、児童相談所の開設を32年度に目指しているわけですが、引き続き皆様方のご意見を拝聴しながら、区として取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしく願います。

丸島会長

ありがとうございます。

インフルエンザのお話がさっき出ましたが、子どもに触れる仕事をしているところというのも当然、常に危険性があるんですね。私どもも、教職員に関しては、1回接種すると3,800円、それは全額法人が負担しましょうという形をとっていますけども、保育所でも負担しているというところあるでしょうね。小学校なんかはどうなのでしょう。小学校教諭に関しては、全額本人の負担ですか。それはまた大変ですね。先生がかからないという保障はないですから、いろんな意味で負担が出てくるんじゃないかなと思います。

それでは、北川委員、願います。

北川委員

きょうも本当にいろいろ貴重なご意見、ありがとうございました。

まず、幾つか申し上げなくちゃいけないんですけども、保育園で行われている宿舍借上げですとか奨学金ですとか、そういったものについて幼稚園もというお話につきましては、以前も千田委員からお話いただきまして、本日も藤間委員からもそういうお話をいただいております。

正直申し上げまして、今、幼児教育の無償化という非常に大きな問題が出てまいりまして、先ほど渡辺委員からもありましたけども、給食の話とか、そういうのも含めて、もともと沿革の違う別々な制度について、それも公立と私立といろいろある中で、どうやって整理していくかというのは、我々としても正直困惑しているというのがあります。それから、年度の途中でまた始まるというのも、なかなか役所的には難しい課題になっておりまして、そういう中で検討がなかなか進んでいないというのが実態だと思っております。

私どもといたしましては、今のインフルエンザですとか、あるいは一時保育ですとか、いろんな子育て支援策がありますけども、そして、児童相談所の開設も見据えた中では、区として、子育て支援策について、もう一回、再構築すべき時期なのかなという問題意識を持っております。

したがって、そういう中で、いろんな形でどういうご支援を申し上げればよろしいのかということについても整理して、この場でできるかどうかわかりませんが、ご提示申し上げるような形になればと思っております。

それから、2つ目は、今、青山部長からありましたけども、このアンケート調査ですけども、これは決してお金持ちだけ集めたとかそういうつもりは毛頭ありませんで、ランダ

ムに抽出して、もしかしたら、回答された方は高所得者層に偏った部分はあるかもしれませんが。ただ、こういう統計は今回単純集計でしたけども、読み方が大事でありまして、例えばですけども、子育てで気軽に相談できる先ということで、祖父母が75.6%とありますけども、逆を見ますと、子ども家庭支援センターが2.5%、保健所が3%、自治体の子育て関連担当窓口につきましては0.9%ということで、この数字を見ますと、ある意味では、役所の窓口は敷居が高いということが明らかになっています。そういう意味では、我々としては真摯に受けとめまして、相談しやすい窓口をどうすればいいんだろうということについて考えなくちゃいけない、1つの糸口になったんじゃないかなと思っております。

それから、3つ目で、出産・子育て応援事業について、大変皆様に関心を持っていただきまして、ありがたかったですけども、これからまずは園長会にというお話がありましたけども、いろいろなところに私どもが出向いて、この施策をまずは普及していく、皆さんにまずは知っていただくということが大事かと思っております。また、こういう施策というのは、やってみてわかることが必ずあります。ですので、いろいろ情報量が多過ぎるんじゃないか、見にくいんじゃないかとおっしゃるとおりかと思えます。いろいろ情報を入れますと見にくくなってしまふ、ただ、入れたいことも保健所として山ほどあると、そういう中で、どうすれば使いやすいかということで、こういう様式については、毎年毎年見直したって構わないわけでありまして。転入された場合にどうするのかとか、それから、ハイリスクの方もいらっすると、いろんなご意見を頂戴いたしましたが、それをしっかり受けとめまして、この施策を、4月に間に合わないかもしれませんが、どんどん改善してよいものにしていかなくちゃいけないだろうなと思っております。

それから、4つ目の女子医大についてですけども、これは先ほど伊藤からも説明いたしましたけども、もう一つつけ加えさせていただきますと、今、産科のお医者さんが少ないんですね。経験豊富な産科のお医者さんが非常に少ないというふうに病院から聞いておりました、そういう意味では、経験豊富なお医者さんのいるところに妊婦さんに集中していただいたほうがいい医療ができるということはリバーサイド病院からも聞いております。

したがいまして、分散させてしまうのが果たしていいことかどうかということを考えてときには、出産そのものについてはむしろ集中させたほうが安心ですよというお話もいただいています。これから協議を始めているところでありますので、今、いただいたご意見も確かに身近なところというご心配もよくわかりますので、ご相談していきますが、そういう部分があるということをご理解いただければと思っております。

いろいろお話し申し上げましたけども、先ほど親御さんと保健師さんとの顔の見える関係というお話がありました。私は各機関の連携ということで、高橋先生からありました、いろんな子育て関係機関の関係についても、これからどんどん顔の見える関係にしていかなくちゃいけないと思っております。それは何よりも児童相談所が開設したときに、基礎

自治体としてのよさを一番発揮できるのは、お互いに近いということですね。そういう中でこれからもいろんなレベルで顔を合わせて、具体的に気軽に悩みも何も全て話せるような関係をつくっていければと思っております。そういう中で、我々としては、先ほど再構築したいと思っております区の支援についても、実効性のある形をどうすればいいのかと、どうすればお役に立てる支援になるのかと。お金をばらまくだけでは意味がありませんので、実効性を保つためにどうすればいいかということを追求めてまいりたいと思っております。

いずれにいたしましても、この会議は非常にいろいろありがたいご意見を頂戴できる貴重な機会でありますので、引き続き積極的にご意見を頂戴できればと思っております。ありがとうございました。

丸島会長

どうもありがとうございます。

私はふっと自分のところの卒園児で医大なんかにかかったのが結構挨拶に来るんですね。考えてみたら、産科に行きたいといったのが1人しかいなかったです、この25年ぐらいの間で。ほとんど内科とか外科、特に男の子は外科に行きたいというのは多かったですね。今までで60何人が卒園児をお祝いしましたけど、産科は確かに1人でしたね。

それでは、長島副会長、お願いいたします。

長島副会長

時間も過ぎていきますので、ごく簡単に。

個人的なことから申しますと、私、現住所が野田でして、ここ数カ月、いろいろ気の重たいという感じがずっとしておりました。それで、きょうの施策の1番目で児童相談所のこと書かれておまして、その中にある質の高い専門人材による体制と書かれていて、人材ということを考えるわけですね。ちょっと野田市のこともあったりして、そのことが気になるということです。

それで、保育所、学童クラブについても、施設の充実だけではなくて、人材の確保といいますが、そのことをやっぱり忘れちゃいけないんだなということを再認識いたしました。またその一方で、保育所要領の記入という話を聞きながら考えたわけですけど、いろいろなことを充実させなくてはいけないわけですが、そうすると、そこにかかわる人たちの負担というのも重くなってくるわけですし、そこら辺のことも忘れてはいけないのかなということです。

人材の確保ということが第一でしょうから、質の維持とか向上とか、そこまではなかなかということかもしれませんが、保育所、幼稚園、小学校、中学校を含めて、さまざまな形での研修の充実というの必要なんだろうということを考えつつ、皆さんのお話を聞いていたということです。以上です。

丸島会長

ありがとうございます。

貴重なお時間をありがとうございます。きょうはちょっと時間をオーバーしておりますので、よろしければ、これで本日の議事は終了とさせていただきたいと思います。

次回のこともありますので、その他の連絡事項等につきまして、伊藤参事のほうからよろしいですか。お願いいたします。

伊藤子育て支援課長

本日はさまざまなお意見をいただきまして、ありがとうございます。

次回の会議は、年度が変わりまして31年6月頃を予定してございます。ただ、来年度におきましては、第2期の子ども・子育て支援計画の策定がございまして、皆様からいろいろなご意見を頂戴したいと思っております。今まで年3回という形で開催していますが、来年度は少し回数が増え、もっと皆さんから意見をお聞きしたいということになるかもしれませんが、是非、来年度もよろしくお願いいたします。

丸島会長

ありがとうございます。

それでは、本日は本当に長時間ご苦勞さまでございました。ご協力に感謝申し上げます。
平成30年度第3回荒川区子ども・子育て会議を終了とさせていただきます。